

栗林公園インフォメーション

総面積：約 75 ヘクタール(約 23 万坪)
平庭部：約 16 ヘクタール(東京ドームの約 3.5 倍)

明治 8 年 3 月 16 日 県立公園として公開
大正 11 年 3 月 8 日 「名勝」に指定
昭和 28 年 3 月 31 日 「特別名勝」に指定
昭和 37 年 4 月 14 日 「根上り榎」県指定天然記念物に指定
昭和 37 年 4 月 14 日 「ソテツの岡」県指定天然記念物に指定

香川県桜前線標本木(讃岐民芸館前桜林)

香川県梅開花標本木(北梅林)

香川県紅葉前線標本木(楓岸)



栗林公園キャラクター：リンちゃん

開園日： 年中無休(有料)

入園料金： 大人 400 円 団体(20 人以上) 320 円

小人 170 円 140 円

※年間パスポート(一人用 2,500 円・三人用 5,000 円)

無料入園日： 1 月 1 日(元日)、3 月 16 日(開園記念日)

開園時間： 1 月 7:00~17:00 2 月 7:00~17:30 3 月 6:30~18:00

4 月 5:30~18:30 5 月 5:30~18:30 6 月 5:30~19:00

7 月 5:30~19:00 8 月 5:30~19:00 9 月 5:30~18:30

10 月 6:00~17:30 11 月 6:30~17:00 12 月 7:00~17:00

駐車場： 二つの県営駐車場のほか周辺民間駐車場があります。(有料)

コインロッカー： 東門と北門にあります。

車いす・シルバーカーの貸し出し (無料)

多言語音声ガイド「栗林トーク」の貸し出し (有料)

日本語、英語、中国語、韓国語、仏語、独語、スペイン語、ポルトガル語に対応。

栗林公園観光ボランティアガイド：

園内各所の謂れやエピソード、見どころなどを楽しくご案内します(無料)。

香川県栗林公園観光事務所

760-0073 うどん県高松市栗林町一丁目 20 番 16 号

電話：087-833-7411 ファックス：087-833-7420

ホームページ：<http://ritsuringarden.jp/>



J R 高松駅下車 車 7 分 / J R 栗林駅下車 徒歩 20 分 / J R 栗林公園北口駅下車 徒歩 3 分 / ことでん栗林公園駅下車 徒歩 10 分 / コトデンバス栗林公園前下車 徒歩 1 分 / 高速バス栗林公園前バス停 徒歩すぐ前 / 高松空港 車 30 分 / 高松西インター | 松山方面から | 車 20 分 / 高松中央インター | 徳島方面から | 車 15 分

特別名勝 栗林公園

国の特別名勝に指定されている文化財庭園の中で、最大の広さを持つ栗林公園は、緑深い紫雲山を背景に六つの池と十三の築山を巧みに配し、四百年近い歴史を誇る江戸初期の回遊式大名庭園として、すぐれた地割り、石組みを有し、木石の雅趣に富んでいます。

春夏秋冬と四季折々の風物にも恵まれ、ここに咲く花々は、一千本もの見事な手入れ松とともに、一歩一景といわれる変化に富んだ美しさを醸し出します。

長い年月をかけ、多くの人たちによって受け継がれてきた、栗林公園は、かけがえない文化遺産です。



① **讃岐民芸館** さぬきみんげいかん 焼物、木工品、漆器など生活に密着した民具が約 1,000 点展示されています。ジョージ・ナカシマのテーブルや椅子も展示。

② **商工奨励館** しょうこうしょうれいかん 明治時代に「香川県博物館」として建てられた建物。現在では、香川県の特産品の展示即売や製作実演が行われています。



③ **お手植松** おてうまつ 大正時代に皇室の方々がご来園された際にお手植えされた松。中央は英国王エドワード 8 世(皇太子当時)のお手植え松です。

④ **鶴亀松** つるかめまつ 110 個の石を組み合わせて亀を表現し、その背中に鶴が舞っているような姿をした黒松を配しています。園内には約 1,400 本の松があり、うち約 1,000 本が手入れ松ですが、その中でも、最も姿の美しい松です。



⑤ **根上り檜** ねあがりし 老松の枝に檜が根をおろし、その後、松が枯れたことから、根上りの檜となったものです。(香川県天然記念物)

⑥ **箱松・屏風松** はこまつ・びょうぶまつ 南側の低い松が箱松、北側の高い松が屏風松です。箱松の複雑な樹形は本園独特のもので、300 年以上にわたる手入れの積み重ねで見事な枝振りが保たれています。(写真は「箱松」)



⑦ **百花園(薬園)跡** ひゃつかえん(やくえん)あと 庭園完成時には「百花園」、その後すぐに「薬園」となり、当時高松藩士だった平賀源内が管理にあたりました。今では茶園と梅林となっています。

⑧ **北湖** ほっこ 園内に 6 つある池の一つで、南庭では南湖に次ぐ大きさです。池には「前嶋(ぜんしよ)」、「後嶋(こうしよ)」の二つの島が浮かんでいます。

⑨ **見返り獅子・牡丹石** みかえりじし・ぼたんいし 回遊コースから見て左側の石は、牡丹の花に似ているところから「牡丹石」、右側の石は、獅子が後ろを振り向いている姿に見えることから「見返り獅子」といわれています。(写真は「見返り獅子」)



⑩ **日暮亭** ひぐらしてい 明治初期に建てられた石州流の茶室。茅葺き草庵型の建物の中には茶室が 5 部屋あり、両側に露地(茶庭)が設けられています。

⑪ **西湖** せいこ 本園の西側に長く造られた池で、背景となっている紫雲山の山肌をうまく取り入れた景色を楽しむことができます。

⑫ **石壁(赤壁)** せきへき 中国の景勝地「赤壁」に見立てて命名されたといわれています。

⑬ **旧日暮亭** きゅうひぐらしてい 南庭の東南隅にあった「考槃亭(こうはんてい)」という茶室が、西湖近くに移され「日暮亭」と名を改めました。その後、いったん園外に移され、再び園内に戻されましたが、元の場所には、二代目の日暮亭が建てられていたため、現在では「旧日暮亭」と呼ばれています。江戸初期の大名茶室を今に伝える貴重な建物です。



⑭ **桶樋滝** おけどいのたき 山の中腹に置いた桶(おけ)まで人力で水を汲み上げ、藩主がここを通るときなどに、樋(とい)を使って流していたことからこの名前がついたといわれています。

⑮ **鳳尾埕** ほうびう 薩摩藩の藩主である島津家から贈られたソテツで樹齢は 300 年以上。鳳凰が羽根を広げた姿に似ているところから名付けられました。(香川県天然記念物)

⑯ **掬月亭** きくげつてい 四方正面の数寄屋づくりで、回遊式大名庭園の中心的な建物です。唐詩の一句「水を掬すれば月手に在り」から命名されました。「掬月の間」から南湖を望む景観は見事で、歴代藩主が大茶屋と呼び、こよなく愛した建物です。



⑰ **根上り五葉松** ねあがりごようまつ 徳川 11 代将軍家斉(いえなり)公から賜った盆栽の五葉松が大きく成長したものです。

⑱ **小普陀** しょうふた 室町時代の石組みの手法で作られた丘で、園内の石組みのなかでも最も古く、栗林公園が始まった場所と言われています。



⑲ **南湖** なんこ 南湖一带は、園内でも最も力を注がれたところで、広さ約 7,900 m²の池を中心に、芸術祭豊かな景観が広がっています。池には、杜鵑嶋・楓嶋・天女嶋の 3 島と、仙磯の岩組、偃月橋があり、周囲を散策したり、あるいは舟で回遊しながら、景色の変化を楽しむように造られています。(表紙写真)



⑳ **楓岸** ふうがん 楓(かえで)の岸には、タカオモミジが多く植えられています。11 月下旬の紅葉の頃には、南湖に浮かぶ「楓嶋(ふうしよ)」と合わせ、色鮮やかな場所となります。

㉑ **偃月橋** えんげつきょう 園内の橋でも最も大きな橋です。弓張り月(半月)が湖面に影を映す姿から名付けられました。(表紙写真)

㉒ **吹上** ふきあげ 本園の水源地で、園内の池の水はすべてここでまかかっています。栗林公園は、400 年前は河川の河床であったため伏流水が多く、この水は枯れたことはありません。

㉓ **飛來峰** ひらいほう 富士山にならって作られた築山で、ここから南湖方向を見ると、紫雲山を背景に、掬月亭、手前には偃月橋と、圧巻の景色が広がり、園内随一のビューポイントとなっています。(表紙写真)

㉔ **古裡兵衛九重塔** こりへえくじゅうとう 松平家初代藩主頼重(よりしげ)公は、京都から陶工・紀太理兵衛を招き、お庭焼を焼かせました。この塔は初代理兵衛が作ったものです。

㉕ **講武樹** こうぶしゃ 江戸時代には、馬術や弓矢など武術を練習する場として使われていました。

㉖ **芙蓉峰** ふようほう 芙蓉峰から望む北湖は、紫雲山を背景とし、左右に二島、中心には朱色の梅林橋という美しさです。

㉗ **芙蓉沼** ふようしょう 芙蓉はハスの花の別名であり、夏には約 1000 株あるハスの花が湖面を覆います。

㉘ **群鴨池** ぐんおうち 江戸時代は鴨猟に用いられた池で、広さは 7,930 m²あり、園内最大です。

㉙ **花しょうぶ園** はなしょうぶえん 1970(昭和 45)年に設置されたもので、数千株の花しょうぶが植えられています。5 月下旬から 6 月中旬が見頃です。

㊦ **鴨場(鴨引き堀)** かもば(かもひきぼり) 江戸時代、北庭には、鴨猟をするための鴨場がありました。明治以降、鴨場はなくなりましたが、1993(平成 5)年に鴨場施設を復元しました。鴨引き堀は、全国 5 つの鴨場の中でも最大規模です。



- ① 讃岐民芸館
- ② 商工奨励館
- ③ お手植松
- ④ 鶴亀松
- ⑤ 根上り櫨
- ⑥ 箱松・屏風松
- ⑦ 百花園(薬園)跡
- ⑧ 北湖
- ⑨ 見返り獅子・牡丹石
- ⑩ 日暮亭
- ⑪ 西湖
- ⑫ 石壁(赤壁)
- ⑬ 旧日暮亭
- ⑭ 桶樋滝
- ⑮ 鳳尾塙



紫雲山

散策のポイント!
山(紫雲山)に向かって、このマップを見ると方向がわかりやすくなります。

- 南庭回遊コース(所要時間: 約 60 分)
- 北庭回遊コース(所要時間: 約 40 分)
- × × × 車いす通行困難路
- ○ ○ 車いす迂回路



- ⑬ 根上月亭
- ⑭ 根上り五葉松
- ⑮ 小普陀
- ⑯ 南湖
- ⑰ 楓岸
- ⑱ 偃月橋
- ⑲ 吹上
- ⑳ 飛来峰
- ㉑ 古里兵衛九重塔
- ㉒ 講武樹
- ㉓ 芙蓉峰
- ㉔ 芙蓉沼
- ㉕ 群鴨池
- ㉖ 花しょうぶ園
- ㉗ 鴨場(鴨引き堀)

栗林公園の沿革

栗林公園の起こりは、16 世紀後半、元亀・天正の頃、当地の豪族佐藤氏によって、西南地区(小普陀付近)に築庭されたのに始まるといわれ、寛永年間(1625 年頃)に、当時の讃岐国領主・生駒高俊(たかし)公によって南湖一帯が造園され、現在の公園の原型が形作られました。

その後、寛永 19 年(1642 年)生駒氏の転封に伴い入封した初代高松藩主・松平頼重(よりしげ)公(水戸光圀公の兄君)に引き継がれ、さらに 100 年以上経た延享 2 年(1745 年)、5 代頼恭(よりたか)公の時に、園内六十景命名をもって完成しました。以来歴代藩主が修築を重ね、明治維新に至るまでの 228 年間、松平家 11 代の下屋敷として使用されました。

明治 4 年(1871 年)高松藩が廃せられ、新政府の所有となり、明治 6 年 1 月公布された「公園に関する太政官布告」に基づいて明治 8 年(1875 年)3 月 16 日に県立公園として一般に公開されるようになり、さらに昭和 28 年(1953 年)3 月には、文化財保護法による「特別名勝」に指定され、今日に至っています。

掬月亭 静謐の空間と時が流れる亭内で一服のお茶をお楽しみください。(別途料金が必要)

営業時間: 午前 9 時～午後 4 時 30 分
入亭料: 抹茶付き 大人 710 円 小人 550 円、煎茶付き 大人 510 円 小人 350 円
春秋の期間限定でご昼食の提供も行っています。詳しくは栗林公園観光事務所へお問い合わせください。

日暮亭 茶道石州流の茅葺の茶室で、土・日・祝日には抹茶の提供(500 円)を行っています。

営業時間: 午前 9 時～午後 4 時 30 分(土・日・祝のみ)

商工奨励館 和洋折衷の近代建築の中では、香川県の伝統工芸品や県産品の展示即売を行っています。また土・日・祝日には各種工芸品の製作実演も行っています。

特産品売場: 午前 8 時 40 分～午後 4 時 45 分

讃岐民芸館 新民芸館、古民芸館、家具館、瓦館からなり、香川をはじめ各地の民芸民具を展示しています。館内の古民芸カフェでは淹れたての珈琲をお楽しみいただけます。

開館時間: 午前 8 時 40 分～午後 4 時 45 分 入館無料

このほか園内には、花園亭、吹上亭、小松亭、皐月亭の四つの茶店があります。お食事やご休憩場所としてもご利用ください。

お問合せ先: 花園亭(087-831-5255)吹上亭・小松亭(0120-15-3044)
皐月亭(087-833-6775)

お殿様気分で舟遊び～南湖周遊和船のご案内
舟遊びならではの見所など、船頭の解説を聞きながら眺める庭園はまた格別。お殿様気分でごゆっくりお楽しみください。

乗船料: 大人 600 円 小人 300 円
乗船時間: 約 30 分
運行時間: 始発 9 時(お昼を除き 30 分毎運行)
最終便は季節によって変わります。
乗船券は、東門券売所でお求め下さい。

